

イラストレイテッド泌尿器科手術 図脳で覚える術式とチェックポイント

加藤晴朗 著

＜書評者＞ 中川昌之（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授・泌尿系腫瘍学分野）

まずこの本のコンセプトに驚かされた。「手術は暗記である」という。日本では泌尿器科手術に関していえば、泌尿器科の医師一人当たりが経験できる症例数は一般外科医に比較すると十分とはいえない。一般にいわれているように、より多くの手術を経験した術者ほど手術は上手と考えられており、これは100%正しいとはいえないが、かなりの的を射ていると思われる。患者にしてみれば、一生に1回しか受けない手術で成功を求めることは当然であるが、手術をする側からすると、同じ術式の手術でもやさしい症例もあれば難渋する場合もある。私自身、これまでやってきた手術のうち本当に自分自身満足のできる手術はそう多くないと思っている。もちろん経験を積むほどに目標は高くなるし、患者側の身体的条件も毎回異なるからである。私はこうした理由からいつも良い手術書を求めている。

良い手術書とはどのようなものであろうか。おそらくそれを読み学習すれば、解剖がよくわかり目的とする対象臓器までのアプロー

チがスムーズに行え、また予想外のことが起こっても対処法を想起でき、より安全に手術を完遂できることを可能にするような書物であろうか。もちろん1冊の本だけでそう簡単にできることはなく、実際の症例を経験しながら手術書を繰り返し読み、局所解剖の理解を深め、正しい膜面での剥離を行い、目的を達成することになる。そうしたことを考えると、本書は手術経験の少ない若手医師にも理解しやすいように、創面が実際にどのように見えるかわかりやすく図示されており、著者がいうところの「図脳」を刺激してくれる。またワンポイントの解説は非常に的を射ており、予想外のハプニングが起こっても対処法の想起につながる。また手術で大事な視野を作る際の左手の使い方もよく示されている。それからどのような症例が困難な症例で、その場合にはどのように対処するのがよいのかも示されており、非常に感銘を受けた。

各術式の解説の途中のコラムの「図脳」のところでは、著者の幅

広い知識からのいろいろな逸話や手術に対する心構えなどが紹介されており、豆知識を入れると同時に気分転換にもなる。巻末の「エジプト泌尿器医療事情」は非常に楽しく興味深く読むことができる。ご存知のようにエジプトはビルハルツ住血吸虫症による慢性膀胱炎からの膀胱癌（扁平上皮癌）患者が多い。中でも著者が留学されていたマンスーラ泌尿器疾患・腎臓病センターは Ghoneim 教授や Hassan 教授といった著名な手術の名手があり、毎日のように膀胱全摘除術やその他の泌尿器科疾患に対する手術が行われている。実は、当科の医師も現在同病院に留学中であり、さまざまな泌尿器科疾患の手術の勉強を行っているところである。

以上、紹介してきたように本書は泌尿器科医師を中心として、これから泌尿器科手術を学ぼうとする人、あるいはすでに手術経験が豊富な方でさらに別の観点から勉強を続けようとしている方には最適の書である。この本がこれらの方々の目的達成に大いに役立つことを願っている。

●A4 頁 400 2007 年
定価 17,850 円
(本体 17,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00398-8]
医学書院 刊